

事業実績書

事業名	じん3プロジェクト（人生の3冊の本から始まる、繋がり作り）		
場所	沼津市	大諏訪	地内 D-village
期間	2020年4月1日～2021年3月26日		
	日程	実施項目・作業項目	
事業内容		<p>※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。 イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。（打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など）</p> <p>・感染症拡大を懸念して D-village 開催はメンバー10人以下としリモート参加でした。密を避けるためにアスルクラロの応援なども組み入れ交流を図りました。</p> <p>・サインの製作の目的は、沼津朝日に記事が掲載される度にじん3プロジェクトの開催場所を問われる為に目印としてのサインです。</p> <p>2020.4.6 D-village 年間スケジュールとワークショップ 片浜エリアの価値創造のための打ち合わせ</p> <p>2020.6.19 片浜地区センター第1会議室 片浜「学校運営協議会とは？」 じん3プロジェクト運営検討会</p> <p>2020.6.13 第1回ワークショップ / D-village メンバー紹介＋活動説明</p> <p>・NHK ドキュメント「あの人にいたい」早川一光氏の人生を鑑賞したあと各自自分が大切にしている事象ベスト3を表現しそれについて意見の交換がなされた。沼津朝日の記者も参加して後日掲載された。「まちづくりで何を演出するかと言えば界隈性。現在は、人が密になってはいけなさとされている。アクセルとブレーキを同時に踏まなければならない現状は大変難しい。リモートも検討しなくてはならない。 次回は3人の報告者にコロナ禍でどう生きていくか発表して頂く事になった。</p> <p>2020.7.11 第2回ワークショップ / D-village 講師3名による発表とバズセッション</p> <p>・発表者3名/野中雄介氏・野口 大氏・土屋 明氏の順に持ち時間25分の報告がなされた。その後バズセッションがなされた。会のまとめは2020・7・18沼津朝日新聞に掲載された。総論では正解がわからない時代に生きている現実では、鳥の視点と蟻の視点を何の制約もなく行ったり来たり出来る順応性が大切である。に至った。</p> <p>2020.8.7 第3回ワークショップ / 大手町 tenten</p> <p>・暑気払い。 今回はコロナ禍で目に見えない不安を理由に欠席を選択する会員。目に見えない希望を求め、過剰に増幅された不安をお店側も参加者側も協力しながら解決して、感染症対策は万全の上で参加しようという会員。このどちらの考え方も尊重しようという結論で開催した。 人生の3冊を語り合いました。</p> <p>2020.9.12 第4回ワークショップ / D-village</p> <p>・コロナへの手紙と題して各自発表しました。 そのうち優良2作品(土屋・野口圭子)メンバー2人に「広報かたはま」に投稿して頂き掲載された。会メンバーから静岡県西部は「やらまいか」中部地区の「やめまいか」東部地区の「またまつか」には爆笑した。 沼津市の市章をもじっているところに沼津の根源的な問題が浮かんだ。</p>	

	<p>2020.10.10 第5回ワークショップ / D-village</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者に「オリンピック感動シーンベスト3」の発表をしました。 頼重市長にも声をかけて参加して頂く予定でしたが、台風14号の接近に伴う影響でコメントのみの参加になりメンバーの代読となりました。 ①開会の言葉 ②あの人に会いたい 川西昌枝ビデオ鑑賞 ③私のオリンピックベスト3発表 ④バズセッション ⑤まとめ発表 ⑥閉会の言葉 <p>参加者7人・リモート参加5人・メッセージ参加15人でした。</p> <p>2020.11.7 第6回ワークショップ / 地区センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片浜地区センターで開催された「片浜コミ祭り」に便乗する形で「あなたが選ぶ終の住処ベスト3作品展」でじん3プロジェクトの活動内容の広報につとめた。アンケートに答えてくれた方が100人を超えました。終の住処作品展は今後継続していきます。 <p>2020.12.20 第7回ワークショップ / アスクラロ沼津</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終戦応援ツアー コロナ禍で密にならずに参加出来るワークショップはと考え会員の中にアスクラロスポンサーが多数存在する事でチケットに不自由する事無く安全に楽しめる事を発案しました。 メンバー参加は地元 愛鷹球技場開催のホームゲームは全て参加しています。 12/20は最終ゲームに付き掲載しました。
事業効果	<p>※ 事業計画書において設定した、成果指標に対する実績値を具体的な数値を用いて記載してください。</p> <p>事業成果としては、沢山の仲間と知り合いになれた。若い経営者の経営理念の「見える化」が顕著にあらわれた。</p> <p>コロナ禍の中で密をさけるため、第2波では人数を10人以下に制限し、リモートでの参加とした。</p> <p>討議の内容等を「沼津朝日」に投稿し、主張と存在価値をアピールした。</p> <p>その事によって興味を持たれた方からの意見等が集約され、会に反映された。</p> <p>事業効果 15人/1回</p> <p>はリモート、あるいはレポートにて毎回クリアしています。</p> <p>開催回数は7回/年</p> <p>でしたが片浜小学校読み聞かせのメンバーとの交流会を含めれば12回/年を遥かに超えると思われます。微助人の西側道路を dog street と命名したり達成感があります。</p>
自己評価	<p>※ 上記事業効果を踏まえて、事業の自己評価をしてください。</p> <p>リモートの難しさを思い知った。描いた計画の70%ぐらいの不発になったが、その中でじん3プロジェクトのメンバーは手応えを感じた1年でもありました。</p> <p>じん3プロジェクトは、年齢70代から30代まで幅広い人たちの人生の3冊、あるいは3本を捉え、あるいは3出来事を発表することによって自己の立ち価値を俯瞰することが出来た。</p> <p>又、会の内容をメディア（沼津朝日）にも掲載され、興味を持たれた方からの問い合わせも多々あったことは大変良かった。</p> <p>事業承継へのアプローチはステイホームの中で行動制限がかかり、踏み込めなかったことは残念である。</p>

<p>今後の活動予定</p>	<p>※ ファンドを利用予定・自己資金で活動・事業の見直し等、今後の展開について記載してください。 自己資金で活動して行きます。 人生の3冊にこだわらなければ、会の進行は限りなくサステイナブルになることを体感しました。 仲間づくりはOLD-NEWな関係と自他祝福の精神をもって成り立つと思われる。 持続可能な会の運営にしていき、「片浜のエリアの価値」向上を目指したいと思っています。</p>
----------------	---